

越冬キャベツ… I

担当者 技能研究員 泉谷 雅俊

試験課題名	品種系統選定試験
目的	11月どり品種系統の栽培特性と貯蔵性を比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会キャベツ部会

1 供試品種・資材

品種

※冬 駒(タキイ) 湖 月(タキイ) T-532(タキイ)
寒中70(大学) 寒 玉(大学) 99373YR(雪印)
96213YR(雪印) H651(ホクレン) YR綱吉(みかど交配)
MK-J117(みかど交配) NX-BY472B(渡辺農事)

※基準品種

2 耕種概要

土質～埴壤土

前作～ばれいしょ

播種日～6月22日

定植日～7月25日

収穫日～10月24日

栽植密度～畦幅60cm×株間45cm 3,703株/10a当たり

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
5.8	0.057	36.8	49.2	43.4	219	7.7

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル～150kg 堆肥～2,000kg

(3) 施肥内容 (kg/10a)

基肥～NS262(12-16-12) 7月20日 全層施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基肥	NS262 150kg	18.0	24.0	18.0
合計		18.0	24.0	18.0

4 調査項目

生育調査～播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・結球始期・結球期

収量調査～総重量・調整重・調整率・規格内収量・慣行比・規格内割合・障害

特性調査～しまり・球径・球高・緑色・球形指数・食感・硬さ・糖度(Brix)

枯れ葉調査～10月24日(収穫時)・1月15日・2月1日

5 生育調査

項目	品種	冬駒	湖月	T-532	寒中70	寒玉	99373YR
播種日		6月22日					
発芽期		6月28日	6月28日	6月28日	6月29日	6月29日	6月28日
発芽率(%)		74.6	74.6	68.8	67.3	64.8	69.7
定植日		7月25日					
定植時の苗質	葉数(枚)	4.0	4.8	4.2	5.1	4.9	3.2
	葉長(cm)	9.6	9.4	8.8	9.4	9.4	9.3
結球始期		8月29日	8月29日	8月29日	8月30日	9月2日	9月2日
結球期		9月23日	9月23日	9月24日	9月24日	9月26日	9月26日

項目	品種	96213YR	H651	YR綱吉	MK-J117	NX-BY472B
播種日		6月22日				
発芽日		6月28日	6月28日	6月28日	6月28日	6月28日
発芽率(%)		71.7	65.8	72.6	72.8	78.6
定植日		7月25日				
定植時の苗質	葉数(枚)	3.8	5.1	4.5	4.9	4.9
	葉長(cm)	8.8	9.9	8.4	10.5	11.6
結球始期		9月1日	9月3日	8月30日	9月1日	8月29日
結球期		9月24日	9月27日	9月24日	9月24日	9月25日

6 収量調査

項目	品種	冬駒	湖月	T-532	寒中70	寒玉	99373YR
総重量(kg/球)		1.61	2.62	2.62	2.13	2.50	2.32
調整重(kg/球)		1.10	1.88	1.89	1.32	1.53	1.46
調整率(%)		68.3	71.7	72.1	61.9	61.2	62.9
規格内収量(kg/10a)		4,073	6,962	6,998	4,887	5,665	5,406
慣行比(%)		100	170.9	171.8	119.9	139.0	132.7
規格別割合(%)	3玉～4玉	0	0	0	0	0	0
	5玉～6玉	0	70	80	0	20	10
	7玉～8玉	10	30	20	40	50	65
	9玉～10玉	90	0	0	60	30	25
障害(球)	病虫害	0	0	0	0	0	0
	裂球	0	0	0	0	0	0

※ 規格 3玉 3.4kg 以上 4玉 2.5 ～ 3.3kg 5玉 2.0 ～ 2.4kg
6玉 1.7 ～ 1.9kg 7～8玉 1.3 ～ 1.6kg 9～10玉 0.9 ～ 1.2kg

項目	品種	96213YR	H651	YR綱吉	MK-J117	NX-BY472B
総重量(kg/球)		2.32	2.75	2.70	2.54	2.59
調整重(kg/球)		1.56	1.89	1.78	1.60	1.71
調整率(%)		67.2	68.7	65.9	62.9	66.0
規格内収量(kg/10a)		5,776	6,998	6,591	5,924	6,332
慣行比(%)		141.8	171.8	161.8	145.4	155.4
規格別割合(%)	3玉～4玉	0	10	0	0	0
	5玉～6玉	30	70	50	30	45
	7玉～8玉	60	20	50	70	45
	9玉～10玉	10	0	0	0	10
障害(球)	病虫害	0	0	0	0	0
	裂球	0	0	0	0	0

※ 規格 3玉 3.4kg 以上 4玉 2.5 ～ 3.3kg 5玉 2.0 ～ 2.4kg
6玉 1.7 ～ 1.9kg 7～8玉 1.3 ～ 1.6kg 9～10玉 0.9 ～ 1.2kg

7 特性調査

項目		品種	冬駒	湖月	T-532	寒中70	寒玉	99373YR
外観	しまり(良5~不良1)		3	5	5	2	4	2
	球形 (cm)		16.3	19.7	22.5	20.3	20.0	19.3
	球高 (cm)		12.7	16.0	14.0	13.7	12.3	12.3
	緑色(良5~不良1)		3	2	3	2	2	2
	球形指数 (%)		77.9	81.2	62.2	67.5	61.5	63.7
食味	食感(良5~不良1)		3	2	3	2	4	3
	硬さ(良5~不良1)		3	3	2	2	4	3
10月24日 調査	枯れ葉		0	0	0	0	0	0
	糖度(Brix)		7.1	6.8	6.1	7.6	6.9	7.0
1月15日 調査	枯れ葉		0	0	0	1	0	1
	糖度(Brix)		7.7	7.4	7.0	9.7	7.3	8.2
2月1日 調査	枯れ葉		0	0	0	0	0	0
	糖度(Brix)		8.5	8.0	7.8	9.4	8.7	8.6

枯れ葉 (多3 ~ 少1 ~ 無0) 枯れ葉の0は脈害

項目		品種	96213YR	H651	YR綱吉	MK-J117	NX-BY472B
外観	しまり(良5~不良1)		4	3	5	3	4
	球形 (cm)		19.5	20.8	21.3	19.7	20.3
	球高 (cm)		12.0	13.3	13.7	13.2	14.7
	緑色(良5~不良1)		3	3	2	3	3
	球形指数 (%)		61.5	63.9	64.3	67.0	72.4
食味	食感(良5~不良1)		3	4	2	3	3
	硬さ(良5~不良1)		4	3	4	3	4
10月24日 調査	枯れ葉		1	0	1	0	0
	糖度(Brix)		7.1	7.1	7.1	6.2	6.7
1月15日 調査	枯れ葉		0	0	1	1	1
	糖度(Brix)		8.0	8.9	7.4	7.9	8.3
2月1日 調査	枯れ葉		0	0	1	1	0
	糖度(Brix)		8.5	8.9	7.6	8.8	8.8

枯れ葉 (多3 ~ 少1 ~ 無0) 枯れ葉の0は脈害

8 病害虫防除履歴

殺菌剤			殺虫剤		
8月 9日	スターナ水和剤	1,000倍	7月26日	オンコルマイクロパセル	100倍
8月31日	トップジンM水和剤	1,000倍	8月 9日	オルラン水和剤	1,000倍
9月11日	スレックス水和剤	2,000倍	8月18日	モスピラン水溶剤	1,000倍
9月27日	ダゴニール水和剤	1,000倍	8月31日	オルラン水和剤	1,000倍
			9月11日	ノーモルト乳剤	2,000倍
			9月27日	モスピラン水溶剤	1,000倍

9 試験結果概要

(1) 生育調査

- ① 6月22日に128穴セルに成型トレーにプラグエースを充鎮し播種。発芽率は、冬駒と湖月が74.6%、96213YRが71.7%で発芽率が全体的に低い結果となった。発芽率が低かったのは、初期の育苗で温度管理等の原因と考えられる。
- ② 定植は7月25日に実施した。定植時の葉数は寒中70が5.1枚・寒玉4.9枚・湖月4.8枚・冬駒4.0枚であった。葉長では冬駒9.6cm・湖月・寒中70・寒玉ともに9.4cmで苗質としては寒中70・寒玉・湖月の生育が良好であった。
- ③ 結球始期は8月29日に冬駒・湖月・T-532・NX-BY472Bが始まり、8月30日に寒中70・YR綱吉、更に冬駒より5日遅れてH651が9月3日に結球始期となった。

(2) 収量調査結果

- ① 収量調査は10月24日に実施した。基準品種の冬駒の10a当たり規格内収量は4,073kgであったが、T-532とH651がともに6,998kgという調査結果となった。湖月についても6,962kgと収量が安定しており栽培管理の容易な品種の一つである。
- ② 規格別割合で見ると、湖月・T-532・H651は5玉～6玉が中心で、YR綱吉・NX-BY472Bは6玉～7玉が多く、冬駒は9玉～10玉が90%でやや玉重が低い結果となった。
- ③ 裂球や病害虫の障害球については、各試験区とも発生がほとんど問題にならなかった。11品種の平均調整率は66.2%であったが、品種別ではT-532が72.1%>湖月 71.8%>H651 68.7%>冬駒 68.3%の調査結果となった。

(3) 特性調査結果

- ① 球品質のしまりは冬駒の3(良5～不良1)に対して、湖月・T-532・YR綱吉が5と良好であった。調整後の緑色は湖月の2(良5～不良1)と同程度かやや良い品種はあったが、冬駒の3より優れた品種はなかった。
- ② 外観の球形指数は基準品種の冬駒が77.9%であった。**(球形指数が高くなるほど丸型に近い)**本試験品種の湖月で81.2%と一番球形指数が高く、他の品種は冬駒より低い結果となった。収穫時の糖度は冬駒が7.1度であったが、寒中70は7.6度と一番高かった。
- ③ 10月24日 収穫時の枯れ葉調査では、96213YR・YR綱吉に発生1(多3～少1～無0)があった。1月15日はYR綱吉・MK-J117・NX-BY472B・寒中70・99373YRの5品種に枯れ葉の発生が確認された。

(4) 考察

枯れ葉調査は、収穫時と雪中貯蔵後 1月15日、2月1日の3回実施した。発生状況は収穫時調査では、2品種であったが2回目は5品種が発生、3回調査で枯れ葉発生がなかったのは11品種の内、冬駒・湖月・T-532・寒玉・H651であった。

和寒町で近年多く栽培されている冬駒、湖月以外で枯れ葉の発生、収量、緑色、食味、病害等から、T-532・寒玉・H651が期待できるので、次年度以降も試験検討したい。